

目次

- 1 はじめのうた
- 2 季節のカード (行事編)
- 3 俳句 松尾芭蕉 松尾芭蕉 与謝蕪村
- 4 あそびうた いいもの見つけた
- 5 早口ことば 「ヤンバルテナガコガネ」
- 6 かぞえうた 1台 1房 1張 (自転車、バナナ、弓)
- 7 今月の詩 雨 北原白秋
- 8 たし算 3の段
- 9 ことわざ 売り言葉に買い言葉 海のものとも山のものともつかぬ
氏より育ち 思い立ったが吉日
- 10 かけ算 4の段
- 11 なぞなぞ
- 12 手あそびうた 1本と1本
- 13 今月のうた さわらない
- 14 四字熟語 一目瞭然 右往左往 奇想天外
- 15 おはなし 一寸法師
- 16 童謡 かたつむり
- 17 イメージトレーニング 森のお友だち (第3話 いかだ遊び)
(イメージしてみましょう)
- 18 漢詩 初夏
- 19 百人一首 柿本人麻呂 伊勢大輔 右近 小野小町
- 20 復習コーナー
- 21 暗示 (静かなところで目を閉じて聞きましょう)

俳句

五月雨に 鳥の浮巢を 見に行かん

まつお ばしょう
松尾芭蕉



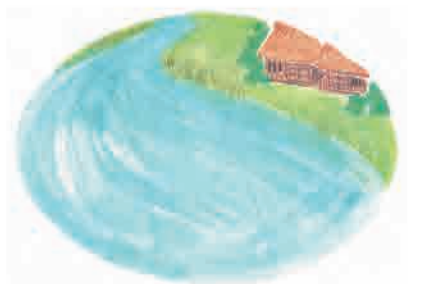
六月や 峯に雲置く あらし山

まつお ばしょう
松尾芭蕉



五月雨や 大河を前に 家二軒

よ さ ぶ ぞん
与謝蕪村



《いいもの^み見つけた》

いいもの^み見つけた かたつむり

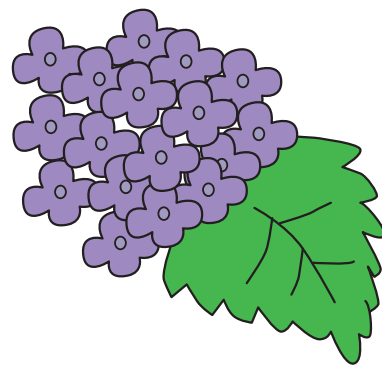
ゆっくりのそのそ あるいてる

いいもの^み見つけた あまがえる

けるけるけるける ないている

いいもの^み見つけた みみずさん

くねくねくねくね うごいてる



今月の詩

あめ
雨

きたはらはくしゅう
北原白秋

あめ 雨がふります。あめ 雨がふる。
あそ 遊びにゆきたし、かさ 傘はなし、
べにお べにお かつこ お 緒が切れた。

あめ 雨がふります。あめ 雨がふる。
いやでもお家で遊びましょう、
ちよがみお 千代紙折りましょう、たたみましょう。

あめ 雨がふります。あめ 雨がふる。
けんけんこきじこいまな けんけん小雉子が今啼いた、
こきじさむさみ 小雉子も寒から、寂しかる。

あめ 雨がふります。あめ 雨がふる。
にんぎょうね や お人形寝かせどまだ止まぬ。
せんこうはなび た お線香花火もみな焚いた。

あめ 雨がふります。あめ 雨がふる。
ひる もふるふる。よる もふる。
あめ 雨がふります。あめ 雨がふる。



う ことば か ことば
売り言葉に買い言葉

あいて ぼうげん たい い かせ
相手の暴言に対し、こちらも負けずに言い返すこと。



うみ やま
海のものとも山のものともつかぬ

しょうらい けんとう
将来どのようになるか、まったく見当もつかない。



うじ そだ
氏より育ち

ひと いえ がら そだ かんきょう きょういく ほう たいせつ
人は家柄よりも、育った環境や教育の方が大切である。



おも た きちじつ
思い立ったが吉日

なに おも た ひ はじ
何かをしようと思ひ立ったら、すぐその日から始めるのが良い。



なぜなぜ

- 1 果物から生まれた男の子が、かつやくする昔話はなあに？
- 2 ガラスの靴をはいて、かぼちゃの馬車にのったお姫様のお話はなあに？
- 3 りっぱな服を着ていると思っ、町を歩いた王様のお話はなあに？
- 4 毒りんごを食べてしまったお姫様のお話はなあに？



手あそびうた

《1本と1本》

① 1本と



みぎ手のひとさし
ゆびをだす

② 1本で



ひだり手のひとさし
ゆびもだす

③ おやまになって



おやまをつくる

④ 2本と 2本で
かにさんになって



手をちょきにする

⑤ 3本と 3本で
おひげになって



ひげをつくる

⑥ 4本と 4本で
くらげになって



ゆらゆら

☆おなじように、みぎ、ひだり
じゅんばんにだす

⑦ 5本と 5本で
おばけになって



おばけのまね

⑧ おそらにとんでった
ヒュー



とんでいくまねをする

《さわらない》

見るだけ 見るだけ さわらない

美術館 博物館

じっと見るだけ 絶対さわらない

びっくり きれいだ おもしろい

見るだけ 見るだけ さわらない

大事なものは 見るだけ

約束しよう きっと守ろう

さわらずじっと 見てるだけ



いちもくりょうぜん
一目瞭然

ひとめのみ あき
一目見ただけで明らかである。



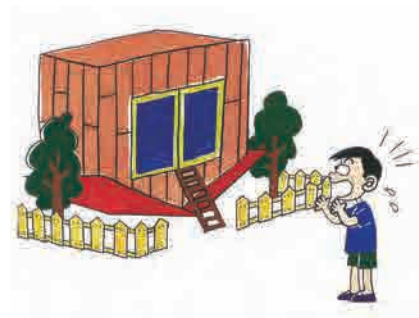
うおう さおう
右往左往

みぎ ひだり
右へ行ったり左へ行ったりして、うろたえること。

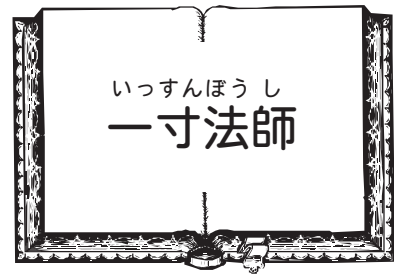


き そうてんがい
奇想天外

おも きばつ
まったく思いもよらないような奇抜なこと。



おはなし



「いっすんぼうし」は、からだはすごく小さいけれど、つよおとこの子のお話です。お話を聞いたあとで、しつもん質問にこたえてみましょう。

- 1 いっすんぼうし一寸法師は、どのくらいのおおきさでしたか。
- 2 いっすんぼうし一寸法師は、どうしてみやこ都へ行くと言ったのですか。そして、みやこ都へ行くために、何をようい用意してくれと頼みましたか。
- 3 お寺参りのかえりに、だれがでてきましたか。
- 4 の飲み込まれたいっすんぼうし一寸法師は、どうしましたか。
- 5 いっすんぼうし一寸法師は、うちでこづちなに何をねがいましたか。



初しよ

夏か

司馬しば
光こう

四し月がつ

清せい和わ

雨あめ乍たちまち晴はれ

南なん山ざん

戸こに

当あたりて

転うたた分ぶん明めい

更さらに

柳りゆう絮じよの

風かぜに

因よりて起おこる

無なく

惟ただ

葵き花かの

日ひに

向むかいて

傾かたむく有あるのみ

百人一首

あしびきの
山鳥の尾の
しだり尾の
長々し夜を
ひとりかも寝む

(柿本人麻呂)

いにしへの
奈良の都の
九重に
けふ九重に
ほひぬるかな

(伊勢大輔)

忘らるる
身をば
人の命の
思はず
誓ひてし
惜しくもあるかな

(右近)

花の色は
うつりにけりな
わが身に世にふる
いたづらに
ながめせし
間に

(小野小町)



柿本人麻呂